

# 自衛隊基地などで インターンシップ

地崎道路

地崎道路（東京都港区、渡邊誠司社長）は4～6日の3日間、宮城県内などで理工系大学生を対象にインターンシップ（就業体験）を実施した。4日は宮城県

東松島市の航空自衛隊松島基地を訪れ、同社らが施工した駐機場や航空機の着陸拘束装置などを見学した。

インターンシップの実施期間は8月6日～9月6日。日本大学生産工学部土木工学科の3年生6人と、摂南大学理工学部都市環境

工学科の3年生4人の計10人が参加した。日大生産工学部は学部創設時から、社会体験教育を目的に企業を訪問する「生産実習」を必修科目にしている。実習の一環として2015年から同社の施工現場を訪れている。

学生は基地職員から概要説明を受けた後、戦闘機や駐機場、着陸拘束装置を見学。松島基地を本拠地に行っている展示飛行隊「ブルーインパルス」の訓練を目の当たりにし、学生は感嘆の声を上げていた。

インターンシップに出席した渡邊社長は「防衛関連

着陸拘束装置を見学する学生



工事に強みを持つ当社の事業内容に興味を持ってもらい、次世代を担う学生の皆さんが土木工事の施工管理

職を目指すきっかけになればありがたい」と期待を寄せた。5日は「東北自動車道北上管内舗装補修工事」（東日本高速道路東北支社発注）の現場を見学した。

見学先となった同基地は、東日本大震災に伴う津波対策として、駐機場と格納庫の位置を約4倍かさ上げしている。舗装工事は防衛省東北防衛局が発注し、施工を日本道路・地崎道路JVが担当した。地崎道路の単独で航空機のオーバーランを防止する着陸拘束装置の据付工事も行われた。

